

## 悲しい体験をまちづくりの知恵に

全国交通安全運動最終日の9月30日、池袋本町1丁目の東武鉄道、JR東日本の踏切そばで氷川神社による交通安全のご祈禱が行われました。この踏切付近で7月に2件もの死亡事故が続いて発生し、注意を喚起する目的もあり町会が呼びかけたものです。豊島区、警察署その他関係者がこれに応じて参加しました。

祈禱を呼びかけた池袋本町1丁目町会会長の田中幸一郎さんは「事故現場に花を手向けるなどして、慰霊を含め注意を喚起していきたい。町会で今後の安全対策や地域住民の安全への意識高揚をはかっていく」と話しています。

この悲しい2つの死亡事故は、7月21日の東武東上線の踏切と、1週間後のそこから10mくらい西の交差点での事故です。

この踏切は、自動車の通行を遮断する柵が設置されています。ここは、1時間のうち40分の間遮断機がしまったままの状態もしくはとといういわゆる「開かずの踏切」と言われているところ

です。危惧していた事が現実のものになったというのが実感です。我々地域住民もお互いに声をかけ合いながら、二度とこのような事故が起こらないよう、注意を喚起していきたいでしょう。

行政や東武鉄道、JR東日本は、連続して起き

たこのたびの体験を単に慰霊だけに終わらせることなく、住民の声に耳を傾け、更なる安全対策に取り組んでほしいと思います。

この場所は、線路の東側の先には区立立上池袋図書館があり、西側の先には池袋本町防災ひろば内の区立プレイパークがあります。施設をつくるとき、単に利便性だけでなく、住民の安全の確保を視野に入れた都市設計の基本を区と住民と一緒に考えていくことの大切さを感じます。

この事故に直面し、新しいまちづくりの会が始まったばかりのこのとき、あらためてまちづくりの基本原則を感じます。

亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りします。(まとも：広報部、資料提供：豊島新聞社)



▲信号のない交差点と踏み切り



▲慰霊をこめて交通安全を祈る

# まち

# 池袋本町 まちづくりニュース

Ikebukuro Hancyo  
Machizukuri News  
**no.41**  
2006年11月発行

発行：池袋本町 新しいまちづくりの会  
豊島区 環境整備課  
問い合わせ先：  
TEL 03-3981-2612  
FAX 03-5950-0803  
編集協力：(株)まちづくり工房

池袋本町新しいまちづくりの会は、池袋本町のまちづくりを考えていくために、実際に足で歩き、目で確かめ、それをもとに大切にできるものや改善する点などをみんなで確認しあいました。

## ワークショップとまち歩きを実施！

まず、地区の現状を把握することに取り組みました。3月、5月、6月に、定例の協議会の中でワークショップを実施し、地区の課題等をまとめました。

そして、7月には2回のまち歩きを行い、地区の問題点だけでなく、新しい発見や今後残していきたいものなどを確認しました。(②③頁参照)

## まちづくり方針とまちの将来像作成を見据えて・・・

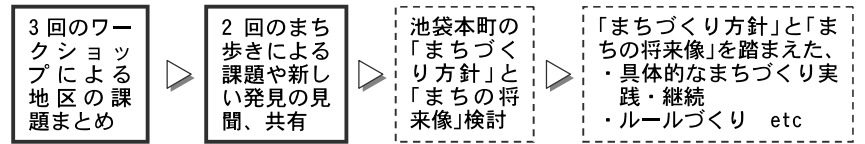
住みよいまちづくりを進めるために、池袋本町の「まちづくり方針」と「まちの将来像」をみんなで共有し、協働でまちづくりに取り組んでいきます。

このために、まず、地区の現状を十分に把握することに努めました。その上で導かれた「まちづくり方針」と「まちの将来像」は、地域の様々な課題を解決する一番の近道を示すものになると考えられるからです。



▲会員による協議の様子

### ■まちづくりを考えるイメージ



【 これまでに取り組んだこと 】 【 今後取り組むべきこと、方向性(案) 】

# 守る

## 子どもを守る④ 池袋中学校長 塩田壽久

中学生の時期は「青年前期」の時期であると言われます。大人になりきれない。かといって子どもでもない。考えも大人であったり、子どもであったり。大人と子どもの狭間で揺れ動いている状態とも言えるでしょう。この様な状態ですから、社会の良いものも悪いものも何でも受け入れてしまう、といったことも見られます。

このような中で、今の社会、特に池袋周辺に目を移してみますと、中学生にとって決して良い環境とは言えません。犯罪の多発、また性に関わる風俗が甚に氾濫している状況、といったも過言ではありません。すなわち、中学生が一步道を間違えると巻き込まれる可能性のあるものが氾濫している状況です。このような状況の中で我々大人たちは、子どもを守るためにど

う行動をしたら良いのでしょうか。

それにはまず、ご家庭がしっかりと子育てをすることです。ご家庭を持ち子どもを授かった以上、成人になるまでしっかりと育てる義務があります。父親と母親がじっくりと話し合い、同じ考え・同じ姿勢で子育てに当たってほしいのです。子どもの存在をきちんと認めた上で、すばらしい考え・行動には諸手を挙げて褒めてあげ、おかしな考え・行動には厳しい叱責を与えてほしいのです。ご両親の考えがしっかりし、お子さんに目が向いているご家庭には、いい加減な子どもは育ちません。

ご家庭を引き締めることから、我家の子どもを守り、地域の子どもを守っていきましょう。



つれづれに一言  
緑は目に優しく、心に美しく清く、ハツと心の琴線に触れる時がある！目に青葉、心に潤いを、何とかが町にもつれづれに増やしたい。・・・誰か人は生まれながらにして、「善」であるとは何とも思っていない。しかし、容易に周囲の人や環境に左右され、安易に染まってしまう弱性(さ)が、をもっている。かたや、「勤」で清潔好きで優しい心の持ち主が多しと海外で日本人を知る人には、評判が良い。世界に胸を張って誇れる優秀な民族だと思ふ。なのに、人は時とみ、争い、悪を働くのは何故だろうか？大都会の無味乾燥な環境がなせる技なのだろうか？  
池袋本町の「新しいまちづくり」が議論されはじめて一年近くになる。安全で住みやすいまち。明るく楽しくいきいきと暮らせるまち。子供たちが自分たちの育ったまちを愛し、誇りを思えるようなまち。こうした願いを込めて、住民と区の協働で、互いに信頼関係を築き、議論が交わされ、討議と意見交換が展開され、試行錯誤しながらも一歩ずつ着実に「新しいまちづくり」は推進されている。先生に連れられて来しように我が家の前を歩いて行く。こんな様子を眺めながら、何事も思う。人なほ緑豊かな環境、まちづくり・・・課題も多いが、何としまわらず、必ず実現するための方策をみんなで協力して編み出したい。(副会長 野口一治)

現在、防災ひろばは、区と住民が協働でかぎの開閉等を行っています  
「かぎの会」のメンバーを募集中。ご希望の方は事務局まで！